

2022年3月期 第2四半期 決算説明会用資料

2021年11月19日



レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード（6272）

◆ 目 次

1	レオングループの概要	・・・	P 3
2	2021年度 上期連結決算概況	・・・	P 9
3	2021年度 通期連結業績予想	・・・	P 22

① レオングループの概要

◆ レオングループの概要

会 社 名	レオン自動機株式会社（RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.）
所 在 地	栃木県宇都宮市野沢町 2 番地 3
代 表 者	代表取締役社長 小林幹央
設 立	1963年3月15日
事 業 内 容	食品加工機械製造販売事業、食品製造販売事業
資 本 金	7,351百万円
決 算 期	3月31日
株式の上場	東証一部上場
従 業 員 数	2020年度 個別：681名 連結：1,056名
関連子会社	国内：2社 海外：3社
※ 国内シェア	包あん機 90%、自動化シートライン 90%以上
※ 総保有特許数	国内 154件、海外 368件（2021年3月31日 現在）

◆ 食品加工機械製造販売事業

食 品 成 形 機

包あん機やその周辺機で構成された単体



CN700



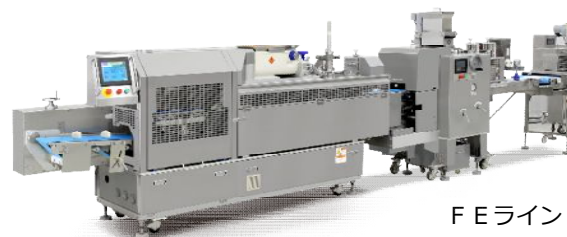
セットパンナー



RHEON®

製パンライン等

製パンラインを主とした自動化ライン等



FEライン



VMシステム



VX222



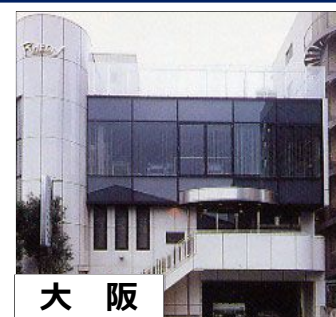
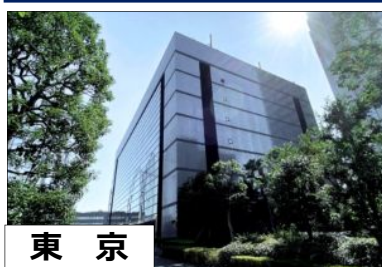
◆ 食品加工機械製造販売事業 国内拠点

機械は国内で生産、販売は日本全国を網羅

栃 木 県



営 業 所

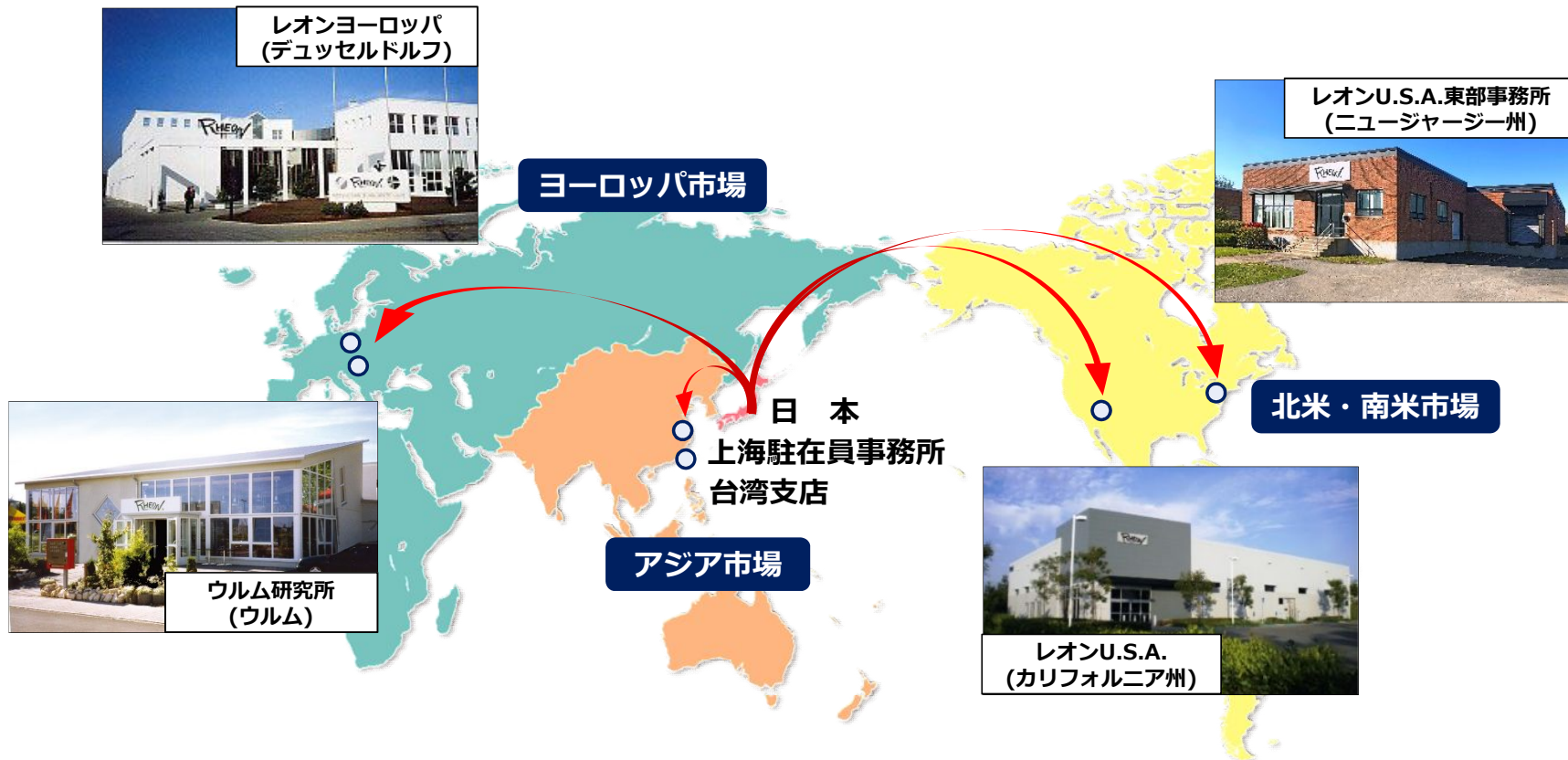


出 張 所



◆ 食品加工機械製造販売事業 海外拠点

海外の販売子会社を通して（アジアは本社直販）
世界126の国と地域に機械を販売



◆ 食品製造販売事業 国内・海外拠点

オレンジベーカリー

カリフォルニア州

本社・第1工場



第2工場



第4工場



ノースカロライナ州

第3工場



- ・ レオン機の実験工場として設立し、クロワッサンなど付加価値の高いパンを製造

- ・ 主に成形冷凍のパンを全米のベーカリー、スーパー、レストラン等に販売

(有)ホシノ天然酵母パン種

神奈川県

本社・町田工場



秦野工場



- ・ ホシノ天然酵母パン種を製造販売

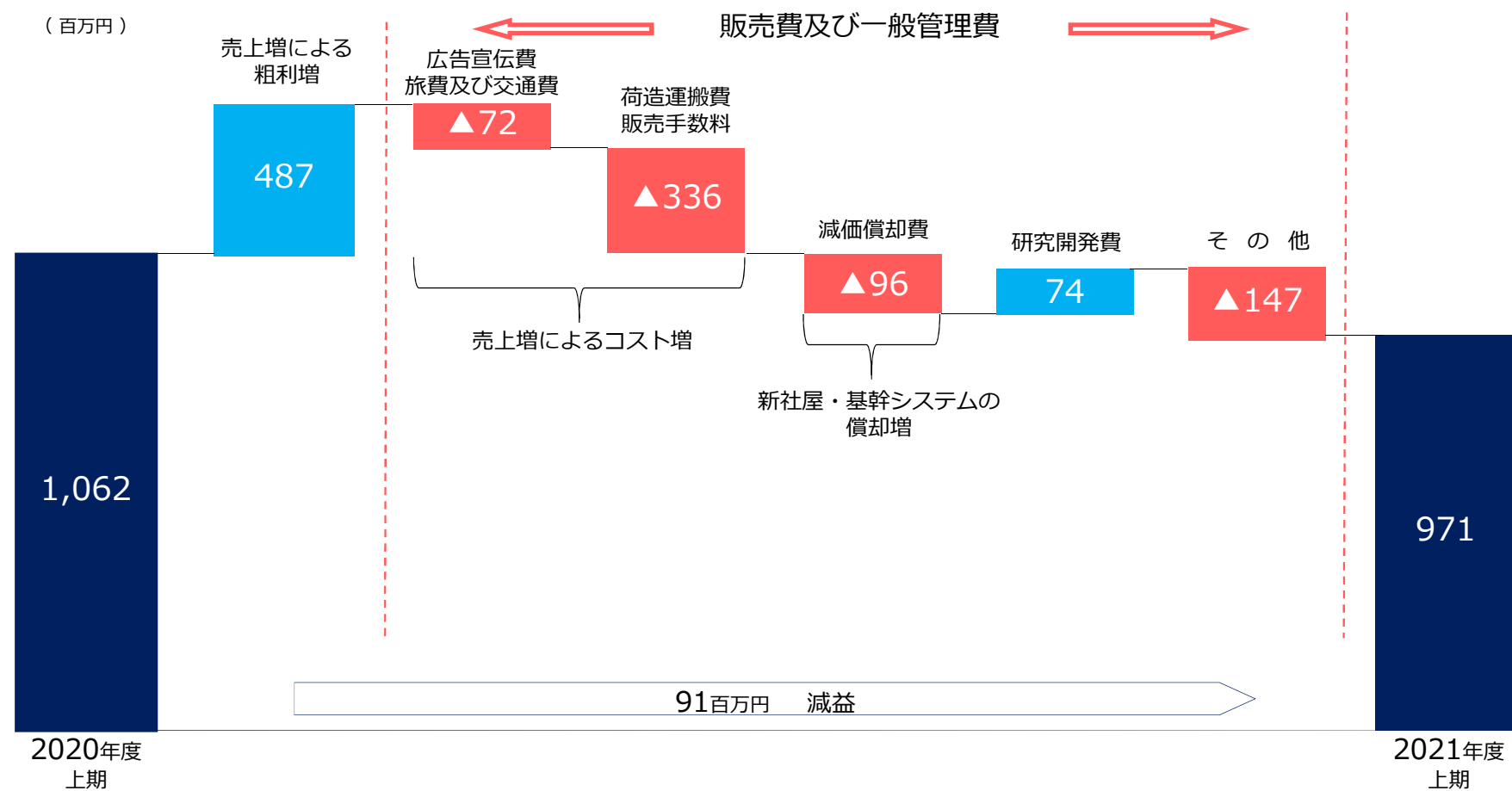
② 2021年度 上期連結決算概況

◆ 連結計算書サマリー（上期）

(百万円)	2020年度 上期実績	2021年度 上期計画 (2021年5月11日)	2021年度 上期実績 ※1	前年比
売上高	11,415	12,200	12,697	11.2 %
営業利益	1,062	840	971	▲ 8.5 %
経常利益	1,176	920	1,020	▲ 13.3 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,526	650	911	▲ 40.3 %
1株当たり 四半期純利益	56.95 円	24.26 円	34.01 円	—
中間配当	7.00 円	8.00 円	8.00 円	—

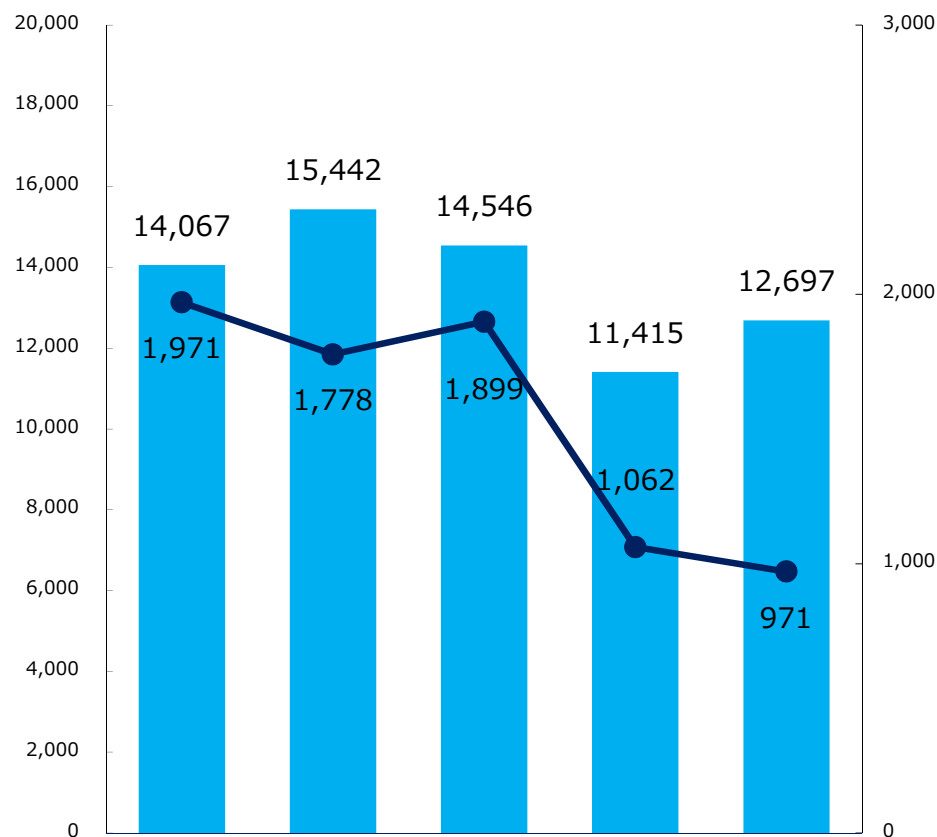
※1 期中平均為替レート : USドル = 109.80 円 ユーロ = 130.90 円

◆ 営業利益増減（上期）



◆ 過去5年の業績推移（上期）

（百万円） ■ 売上高 ● 営業利益

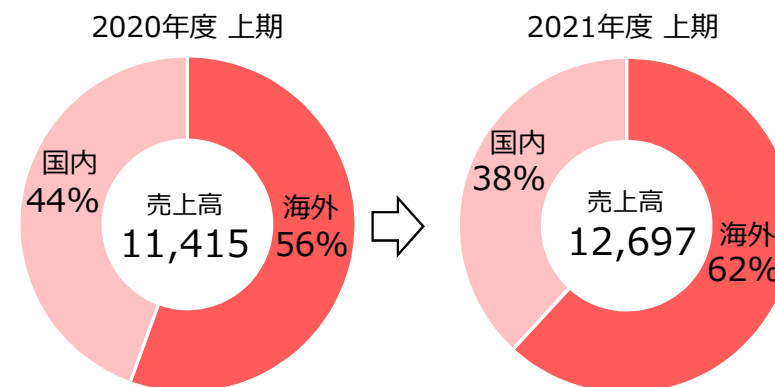


	2017上期	2018上期	2019上期	2020上期	2021上期
USドル	111.06 円	110.26 円	108.63 円	106.92 円	109.80 円
ユーロ	126.29 円	129.85 円	121.42 円	121.29 円	130.90 円

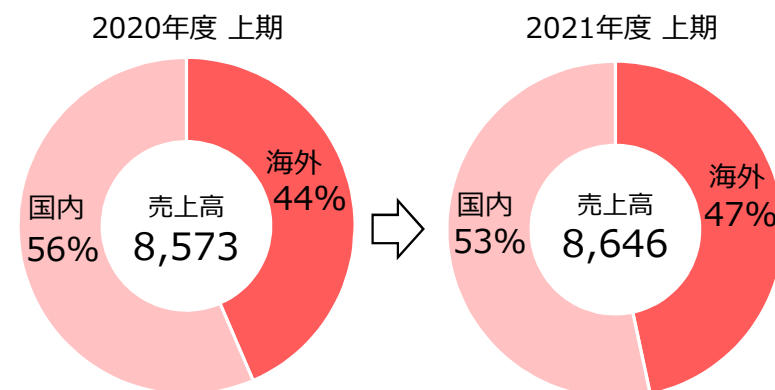
RHEON®

（百万円）

連結国内外売上高比率



食品加工機械製造販売事業 国内外売上高比率



◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》（上期）

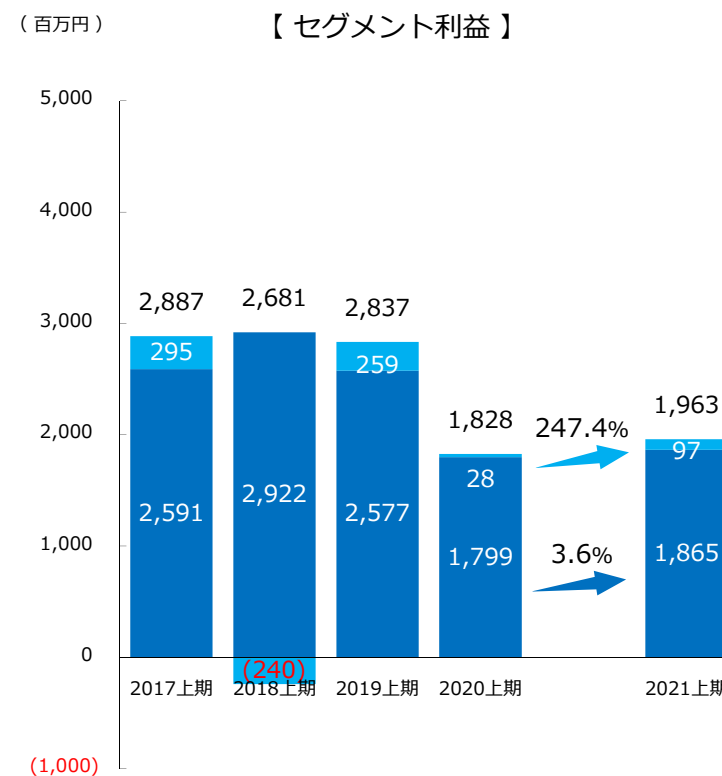
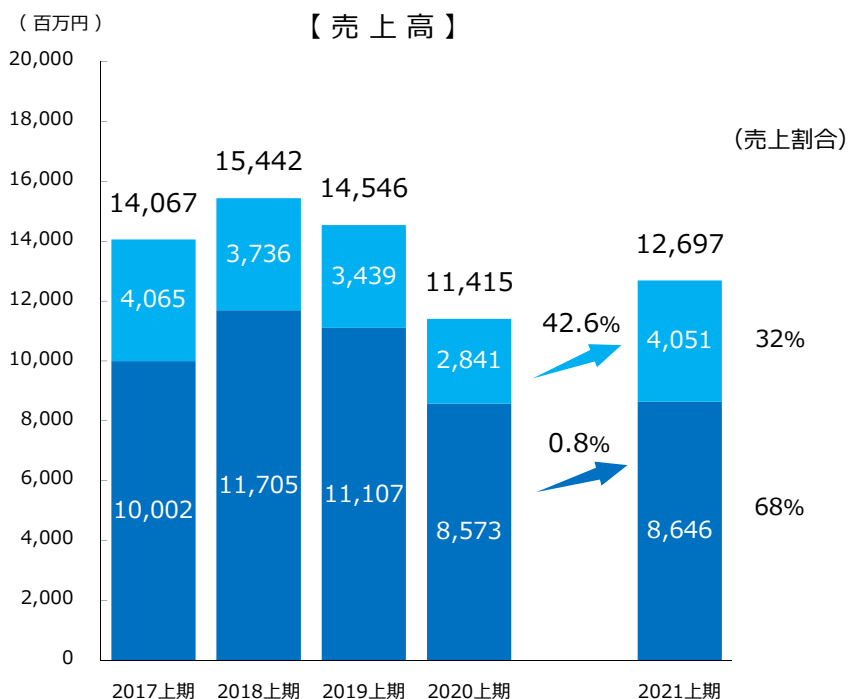
食品加工機械製造販売事業

売上高・セグメント利益は、ともに微増。しかし、上期の受注は増加。

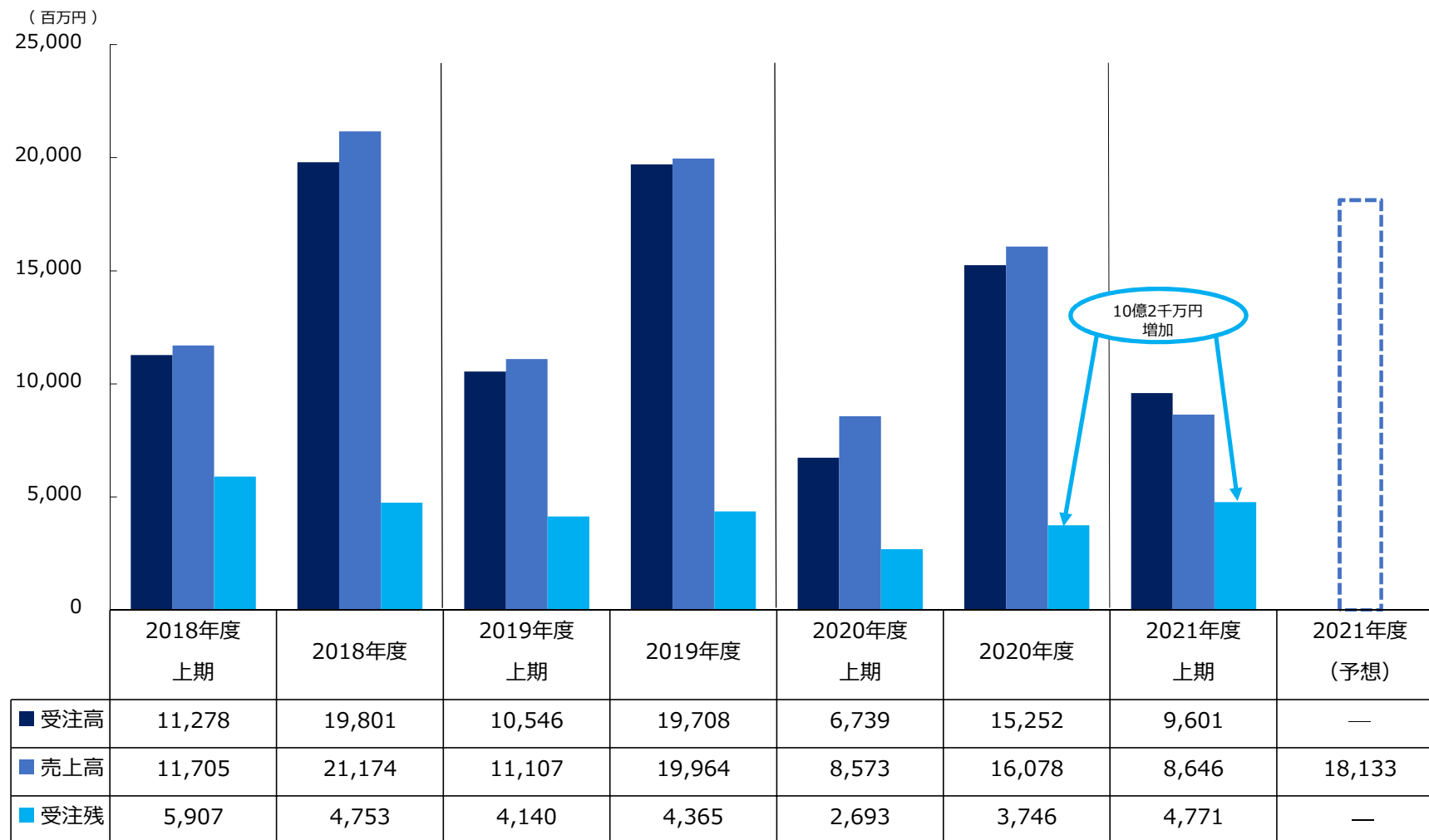
食品製造販売事業

米国の経済回復とともに、増収増益。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業



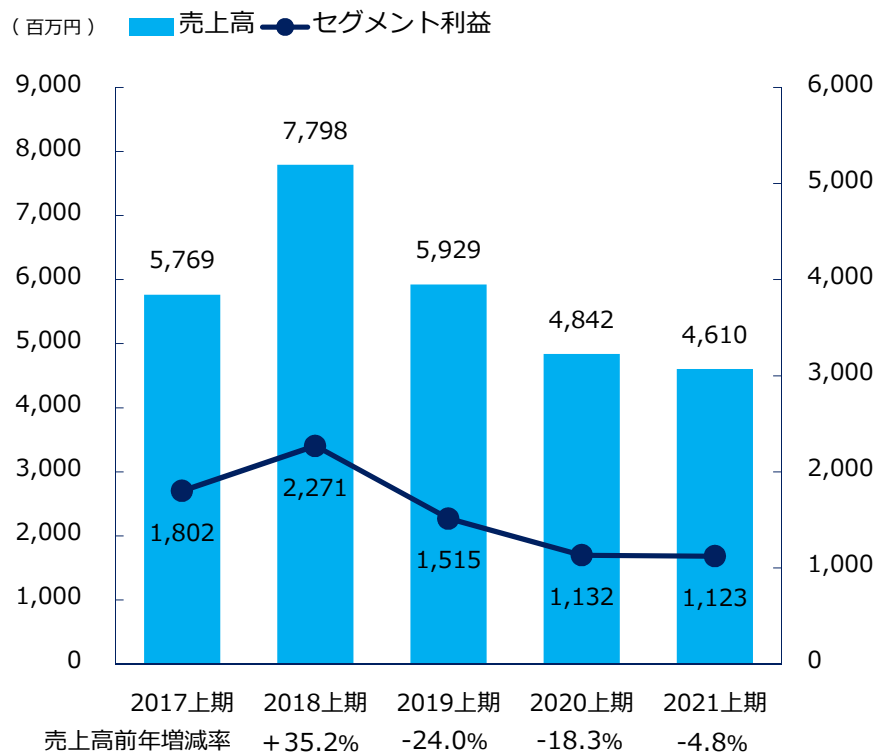
◆ ご参考 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



◆ 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

観光土産業界の低迷や自動化ラインの案件が少なく、減収減益。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 製パンライン等が昨年より減少。
昨年上期は受注残もあり売上が好調だったが今期は受注残が少なかった。
- コロナの影響で、観光土産業界は振るわなかった。
- 食品成形機は、小売店およびスーパー関連でCN700型（包あん機）の販売が好調であり売上が増加。

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

海上輸送遅延の影響を受けたものの、新型コロナのワクチン接種が進み経済活動が再開され、食品製造業界の積極的な投資傾向が見られ売上が増加。

売上高・セグメント利益

（百万円） ■ 売上高 ● セグメント利益



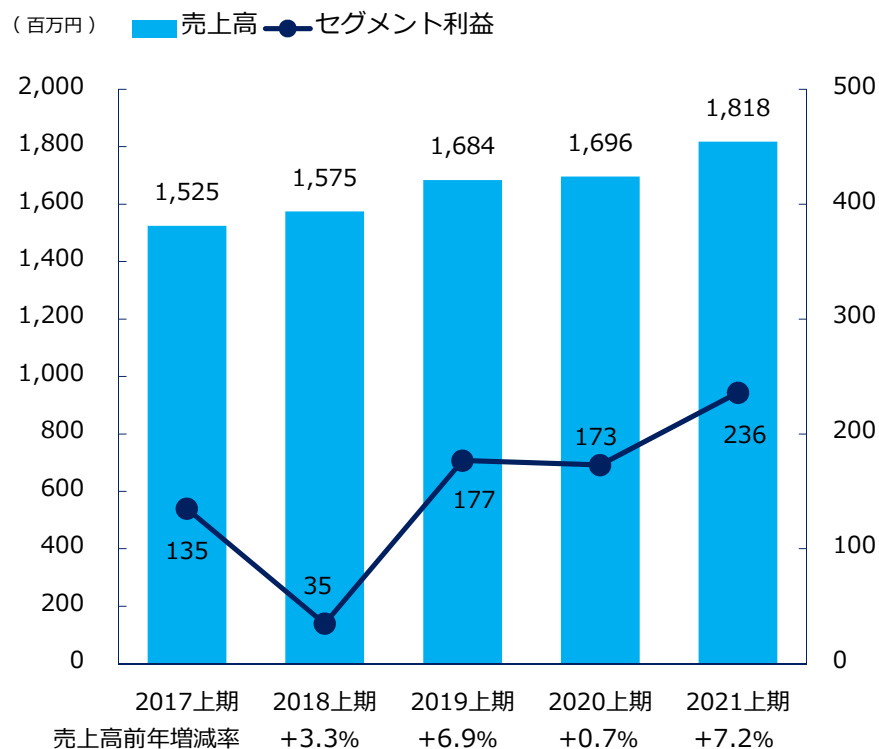
主な増減要因

- アメリカの経済回復により売上が昨年より増加。
- 製パンライン等は、中規模ベーカリーを中心に機械売上が前年に比べ増加。
- 食品成形機は、自動化の需要はあるものの海上輸送のコンテナ不足や、お客様都合による機械納入の延期も重なり前年に比べ減少。
- 定期点検やスペア部品の需要が増加し、売上・利益に貢献。

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

ベーカリー向け小型製パン機の販売が回復、またステイホームによるスーパーマーケットの需要拡大により、食品成型機を中心に売り上げが増加。

売上高・セグメント利益



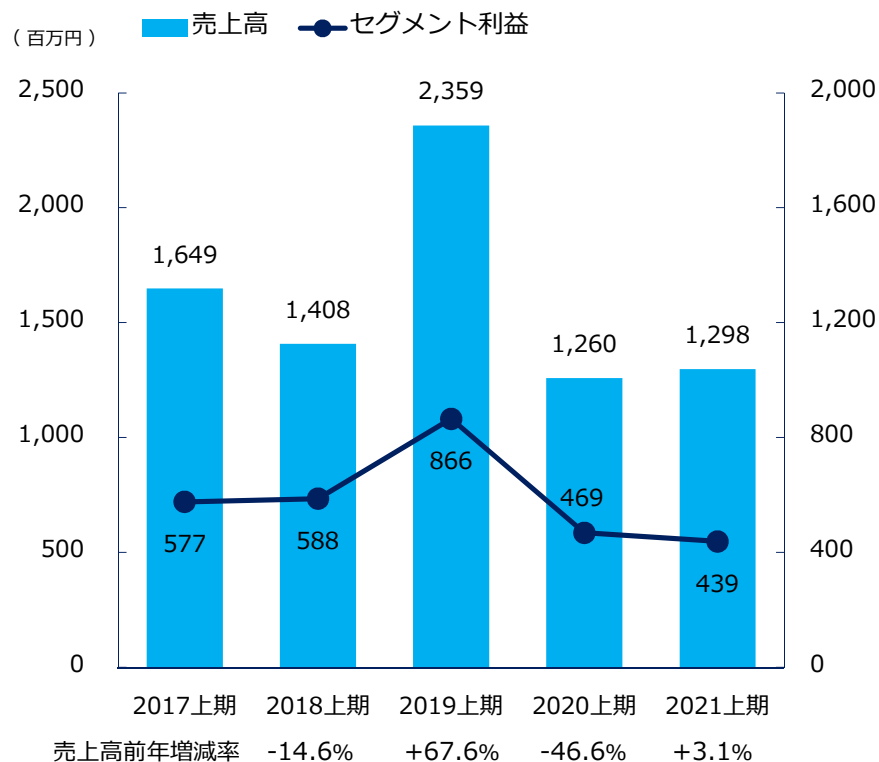
主な増減要因

- 製パンライン等は、主力モデルである小型製パン機の販売が好調であったが、大型ラインの受注が減少したため、売上減少。
- 食品成型機においては、ステイホームによるスーパーマーケット需要が堅調で売上増加。
- 展示会中止などにより販管費減のため利益が増加。

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

本社スタッフが現地に赴けなかったものの、現地販売代理店による展示会や研究会の実施により食品成型機を中心に売り上げが増加した。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 中国・韓国・台湾好調だが東南アジアは厳しい。
- レオン営業スタッフが現地へ赴けなかったこともあり、製パンライン等の売上は減少。
- 食品成型機は、中国、香港、台湾などの現地代理店による積極的な展示会活動や研究会実施により、売上が増加。

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》（上期）

売 上 高

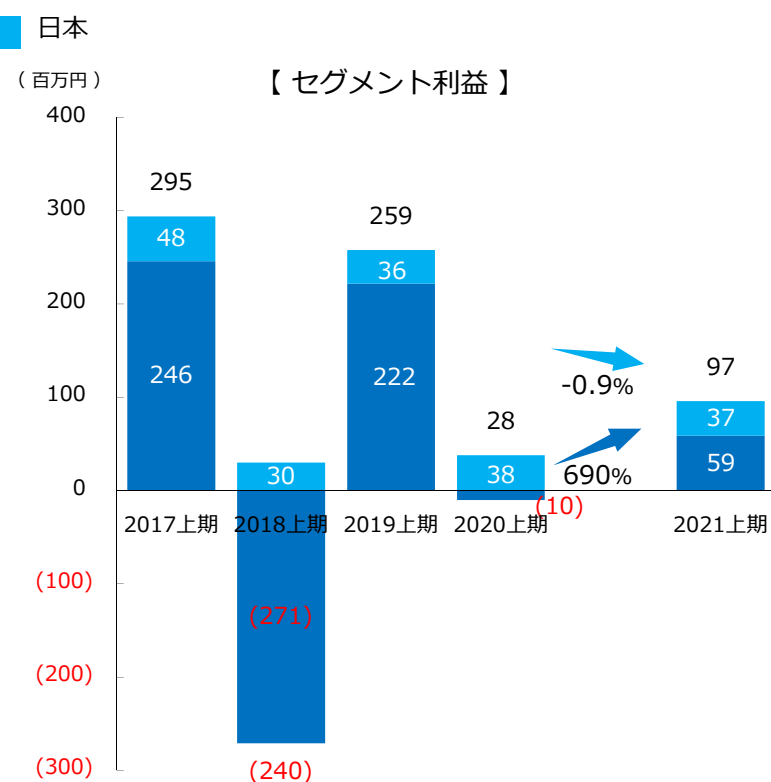
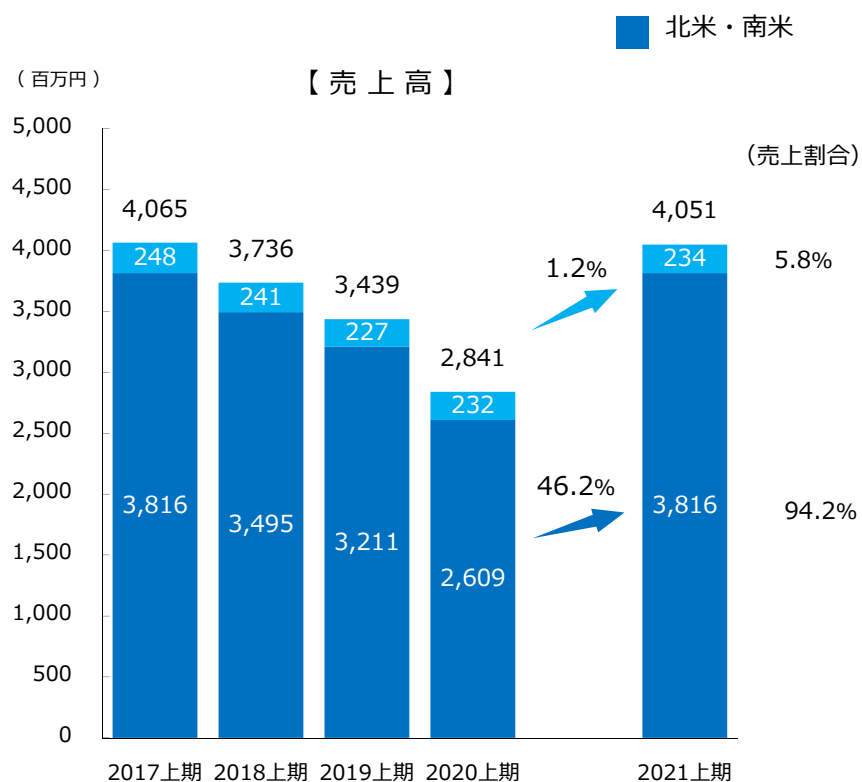
- 北米・南米
- 日本

新型コロナワクチンの接種が進み、レストランや大手食品卸業社向けの売上が増加。
土産用大手パン種減少だが、小売店向けが堅調であった。

セグメント利益

- 北米・南米
- 日本

原材料や輸送費などコスト上昇により、利益を圧迫した。
販管費が増加で利益減少。



◆ 連結貸借対照表サマリー（上期）

(百万円)	2020年度上期		2021年度上期			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	33,328	100 %	36,339	100 %	9.0 %	—
流動資産	16,052	48.0 %	19,276	53.0 %	20.1 %	● 現金及び預金の増加 ● 受取手形及び売掛金の増加 ● 仕掛品の増加 など
固定資産	17,276	51.9 %	17,062	47.0 %	▲1.2 %	● ソフトウェアの減価償却費の増加により無形固定資産の減少 など
負債合計	7,274	21.8 %	8,918	24.5 %	22.6 %	—
流動負債	4,823	14.5 %	6,490	17.9 %	34.6 %	● 支払手形及び買掛金の増加 ● 前受金の増加 ● 賞与引当金の増加 など
固定負債	2,451	7.4 %	2,428	6.7 %	▲0.9 %	● 長期借入金の増加 ● 繰延税金負債の減少 など
純資産合計	26,054	78.2 %	27,420	75.5 %	5.2 %	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加 など
負債純資産合計	33,328	100 %	36,339	100 %	9.0 %	—

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー（上期）

（百万円）	2020年度上期	2021年度上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の 期首残高	4,820	7,484	—
営業活動によるＣＦ	109	1,741	● 税金等調整前四半期純利益 1,020 ● 減価償却費 558 ● 売上債権 ▲500 ● 棚卸資産 ▲860
投資活動によるＣＦ	183	▲347	● 有形固定資産の取得 ▲342
財務活動によるＣＦ	850	▲44	● 長期借入れによる収入 350 ● 長期借入金の返済 ▲160
現金及び現金同等物の 増減額	1,161	1,362	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,981	8,846	—

③ 2021年度 通期連結業績予想

◆2021年度 通期連結業績予想

親会社株主に帰属する当期純利益は、2020年度の土地売却等の特別利益がないことから減少する見込み。

(百万円)	2020年度 実績 ※1	2021年度 予想 ※2 (2021年5月11日)	2021年度 新予想 ※3 (2021年11月8日)	前年との増減 (%)
売上高	22,280	25,050	26,290	18.0 %
営業利益	1,404	2,080	2,010	43.2 %
経常利益	1,622	2,120	2,110	30.0 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,608	1,420	1,560	▲3.0 %

※1 期中平均為替レート : USドル = 106.06 円 ユーロ = 123.70 円
 ※2 想定為替レート : USドル = 107.00 円 ユーロ = 128.00 円
 ※3 想定為替レート : USドル = 112.00 円 ユーロ = 131.00 円

◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

食品加工機械製造販売事業

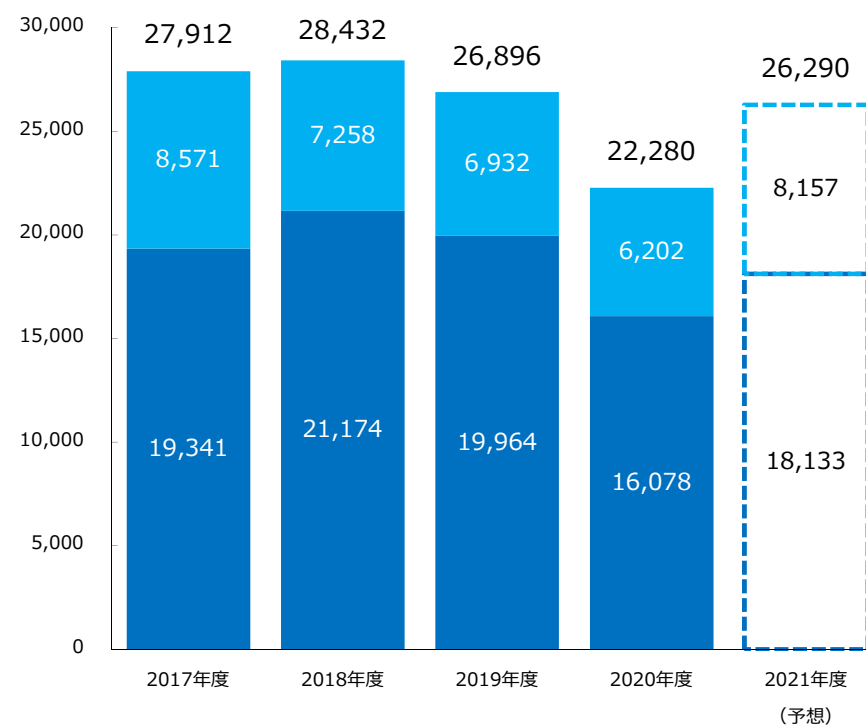
コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、下期に売上が好転すると予測。

食品製造販売事業

オレンジベーカリーを主体に好調を維持すると予測。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

(百万円)

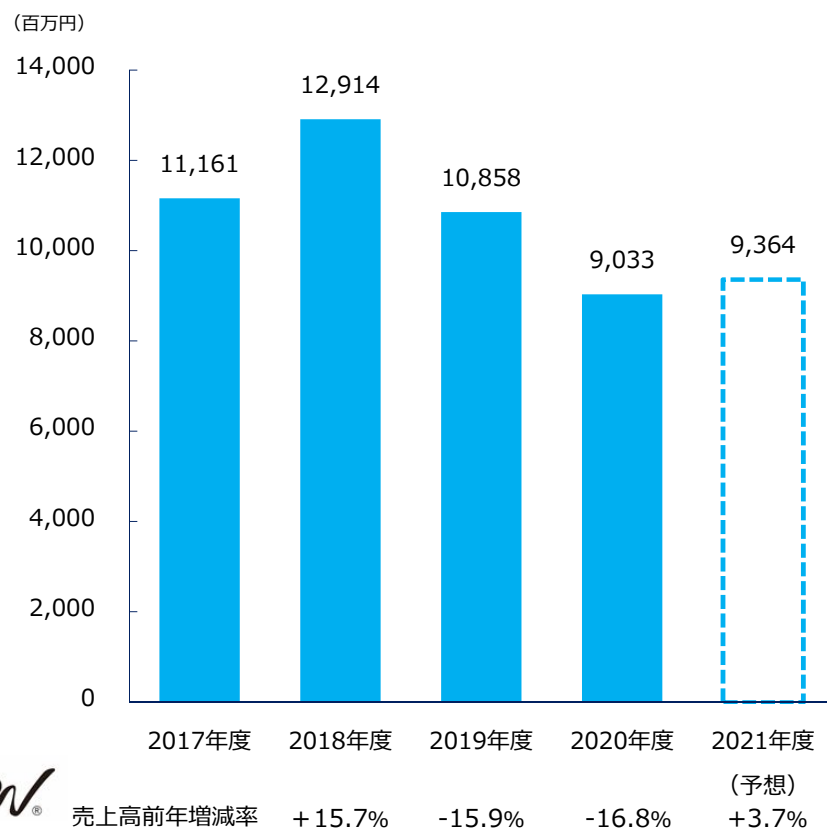


食品製造販売事業 +31.5% (予想)
食品加工機械製造販売事業 +12.8% (予想)

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年（通期） 売上高》

製パンライン等や食品成形機は、全体的に回復傾向にあるが、観光土産業界の低迷が不安材料。

売上高



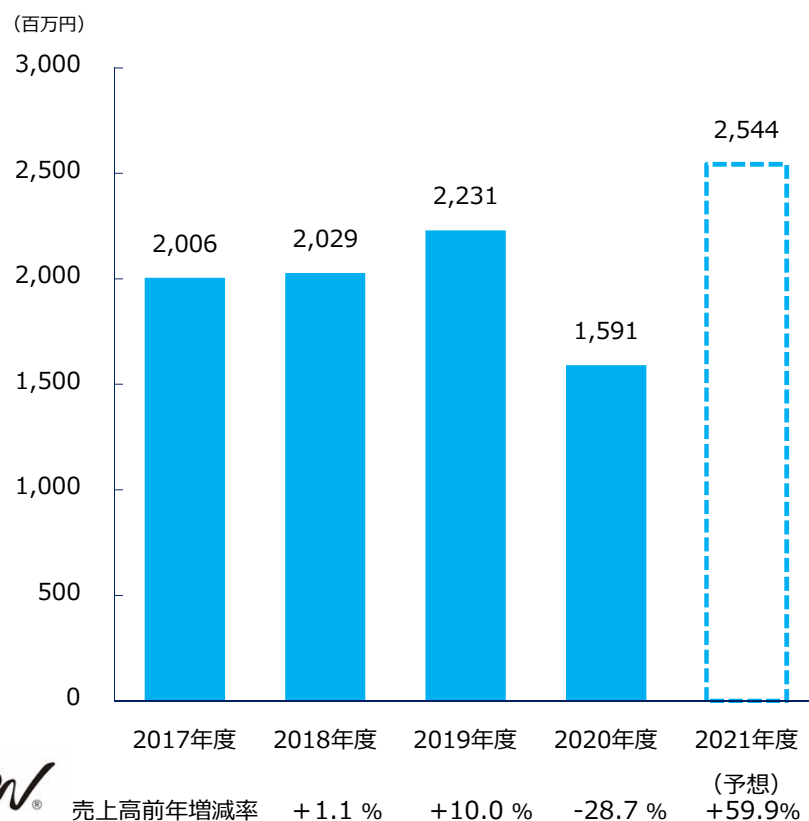
主な増減要因

- 製パンライン等は、ターンキー提案を通して大型ラインの受注が増加。
スーパーの内製化・コンビニの新商品化、調理食品業界や菓子業界の生産合理化。
- 食品成形機は、各種補助金の活用により投資が徐々に増加。
- 観光土産業界の回復は今期中には難しく、微増と予測。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 北米・南米《過去5年（通期） 売上高》

米国の経済回復とともに、引き続き食品加工機械等が好調と推測。

売上高



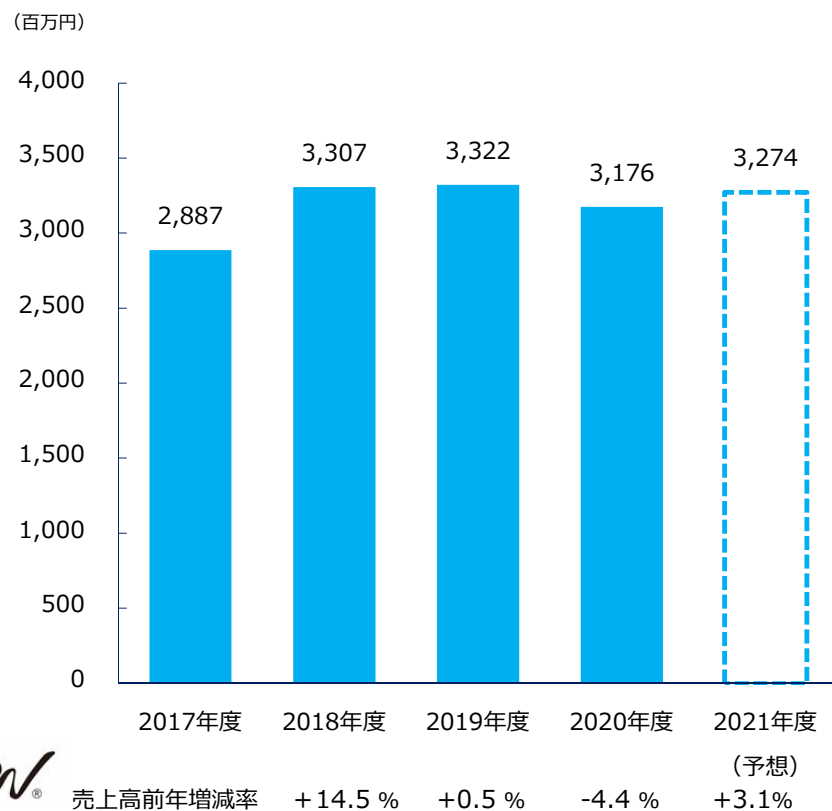
主な増減要因

- 製パンライン等は、大型自動化ラインの
上期からのずれ込みあり。
スーパー向け中規模ベーカリーの投資が好調に
推移すると予測。
- 食品成形機は、アジアンエスニックの浸透で
スーパー向け冷凍・チルド商品の「餅アイス」
や「中華まん、小籠包」などを生産する設備
投資が増加と予測。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（通期） 売上高》

コロナ禍の影響は限定的で、生産合理化需要があり売上を維持と推測。

売上高



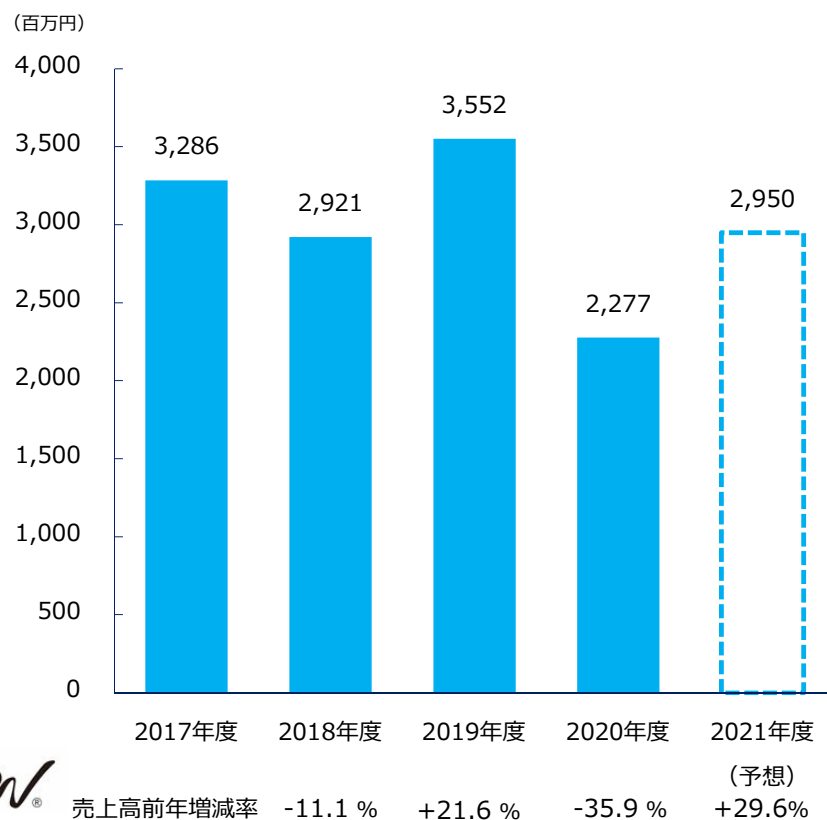
主な増減要因

- 製パンライン等は、小型製パン機を主体とした販売が堅調と予測。
- 食品成形機は、スーパー向けスコッチエッグ・クノードル等の調理食品生産で売上維持と推測。
- EU主要国からの投資が活性化している東欧市場にビジネスチャンスを広げていく活動を推進。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 アジア《過去5年（通期） 売上高》

中国を中心に韓国・台湾等が好調を維持するとともに、東南アジアでは設備投資が依然低迷と推測。

売上高



主な増減要因

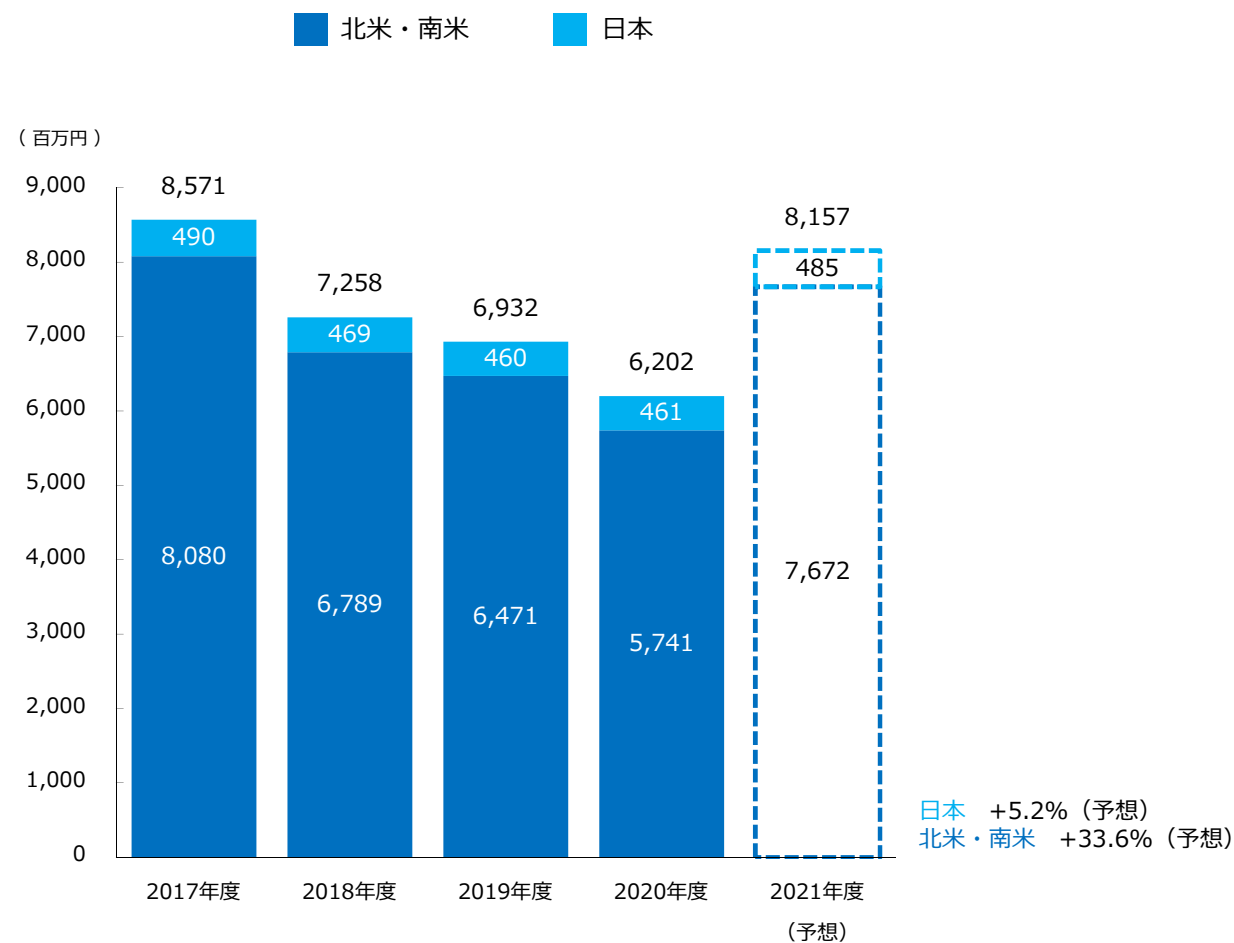
- 中国・韓国・台湾の代理店の販売活動が活性化し、標準機を中心に売上が順調に伸びると推測。
- 中国は、小型製パンラインやチーズボール、月餅、中華饅などを生産する包あん機の販売増加を予測。
- 東南アジア市場は、コロナウイルス感染症影響で依然、設備投資は低迷と推測。

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業 《 過去5年（通期） 地域別売上高 》

売 上 高

■ 北米・南米
■ 日本

大型スーパーやレストラン向けの商品を中心に、売上が順調に伸びると推測。
アジア開拓に活路を見出す。



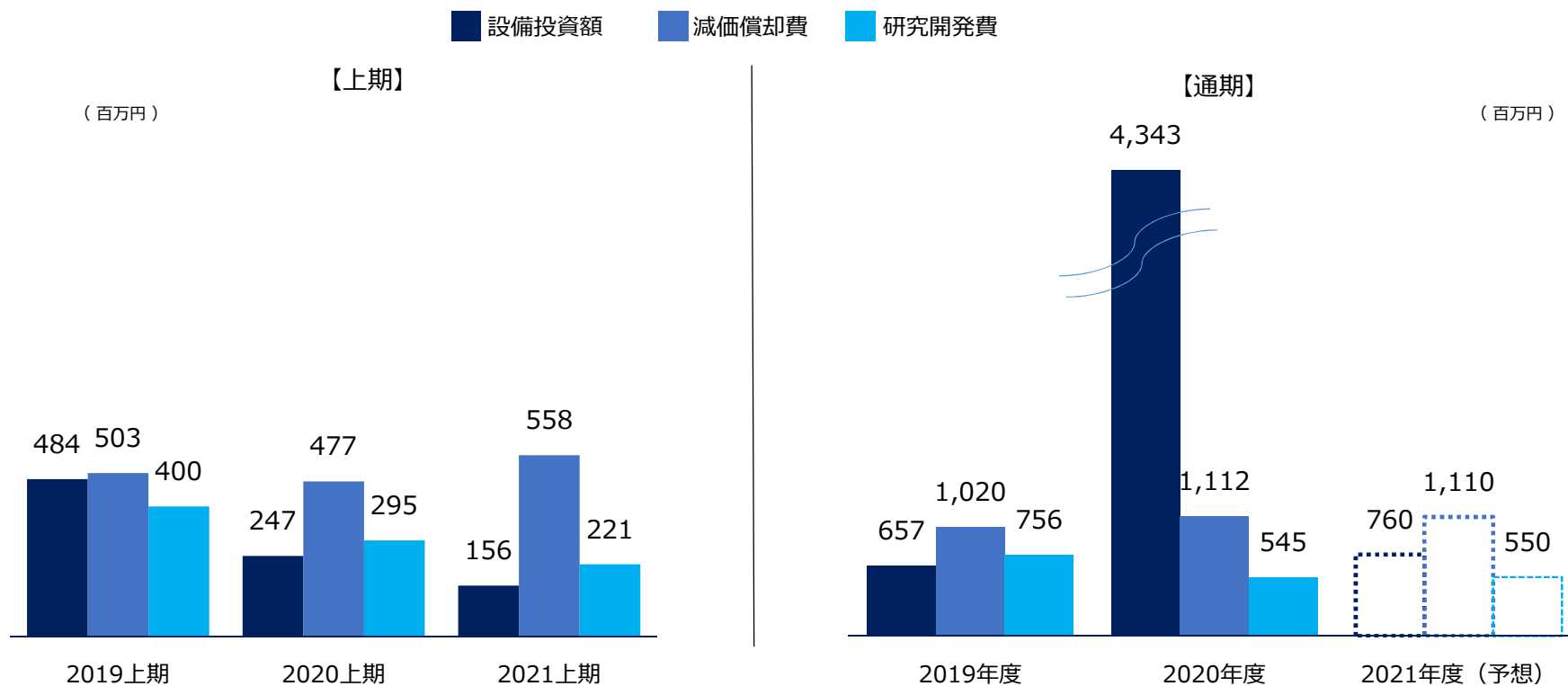
◆ ご参考 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2020年度

■ 「新社屋建設関連費用」、「新基幹システム関連費用」など

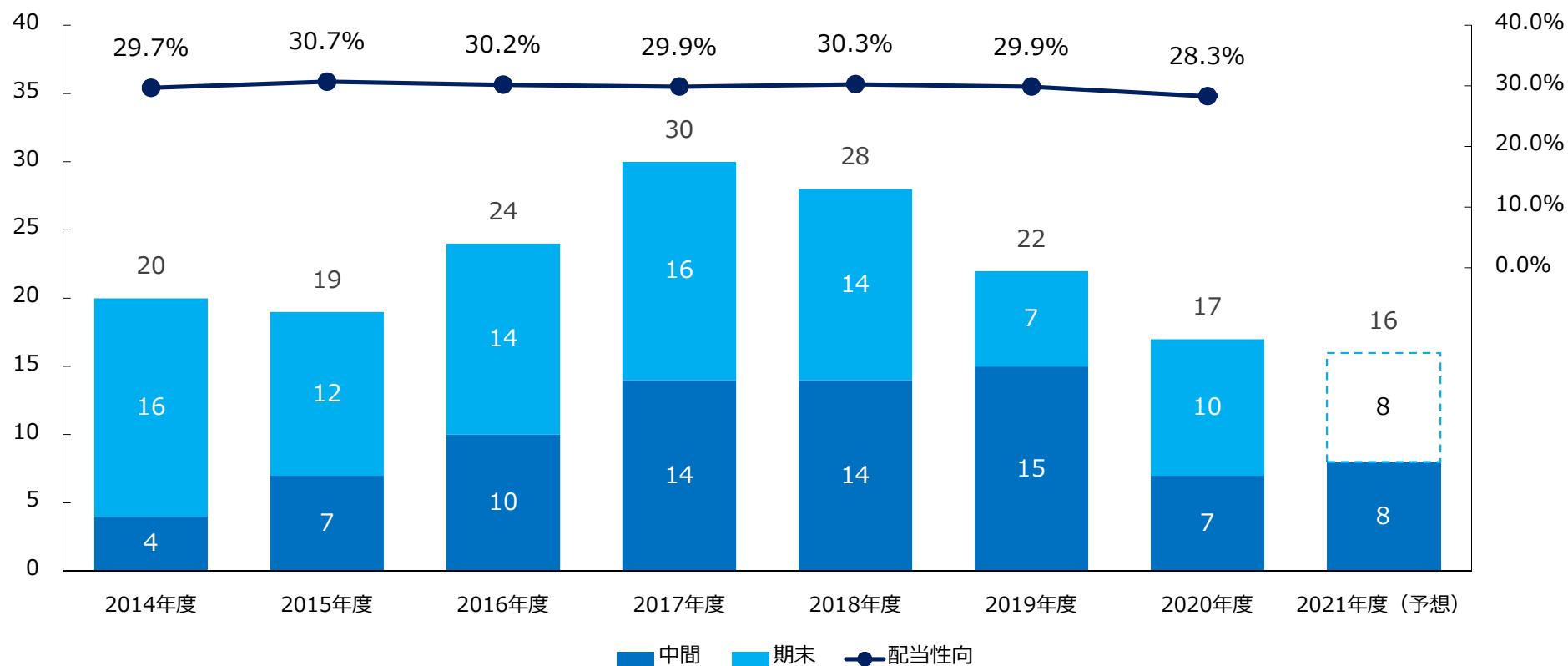
2021年度

■ 「製造用機械装置購入」、オレンジベーカーリーにおける「機械装置導入」など



◆ 配当方針

2014年度に連結配当性向の目標を30%とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。



◆ レオングループのアイデンティティ

社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

添付資料

◆ SDGsへの取り組みについて

創業の精神で培ったテクノロジーと実績



ビジョナリーカンパニーへの変革

- ◆多様なアイデアとレオロジーの応用による食品機械の開発・販売
- ◆多様な人材の活用
- ◆多様な食文化への対応と技術の展開
- ◆安定した経営基盤の維持

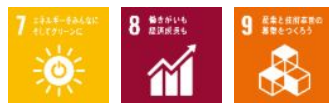
- ◆『存在理由のある企業たらん』を軸に食文化を支えるビジョナリーカンパニーへ
- ◆未来型食品工場へのチャレンジ（オレンジベーカリー工場〔米国子会社・製パン工場〕完全自動化）
- ◆気候変動に強い完全自動化食品工場へ
- ◆強靱で持続可能なバリューチェーン

事業を通じて



- ◆食の安心・安全・安定供給
- ◆食品ロスの削減 ◆食品製造業の安定産業化
- ◆イノベーションによる美味しさと食文化の伝承

ビジョナリーカンパニーを目指して



- ◆“美味しさは世界を一つにする”の実現
- ◆食品工場の完全自動化 ◆業種を超えた連携
- ◆省エネルギーと生産効率向上による安定した食と職の提供

社員教育&ESGを強化して



- ◆社員一人一人がSDGsの精神を理解し行動する環境整備
- ◆省エネや温暖化防止設備への切替 ◆Society5.0の実現

＜SDGs達成に向けた重点的な取り組み＞「とちぎSDGs推進企業登録制度」

販売機種への高効率
モーター搭載
100%

販売機種のIot化
目標 50%

女性管理職の登用
+20%

全社での
CO2排出量削減
-10%